

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	3371000203		
法人名	有限会社げんき		
事業所名	グループホームげんき		
所在地	岡山県新見市下熊谷1554-1		
自己評価作成日	令和7年1月24日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利法人 津高生活支援センター		
所在地	岡山市北区松尾209-1		
訪問調査日	令和 7 年 3 月 17 日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

<ul style="list-style-type: none"> <li>・入居者が笑顔で安心して生活を送っていただける環境作り、生活への支援に努めています。</li> <li>・小規模の施設だからこそできる、メンタルケアや雰囲気作りにも努めています。</li> </ul>
---

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

<p>緑豊かな自然に囲まれ、働きやすい職場作りと入居者一人ひとりのその人らしさを大切にされた支援を目指し、精神面、健康面に配慮しながらその地域からの日々の生活の流れに添って安心とやすらぎと元気な笑顔の実現に取り組んでいる。ホーム内研修も毎月テーマ(「熱中症」「心疾患」)を決めて開催している。救命研修を受け心肺蘇生・AEDの技術を修得し、近所の心肺停止した高齢者の蘇生(異物除去)に役立った。</p>
--

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	当ホームの地域における役割、それに基づく職員の役割、認識を月1回の職員会議、毎朝のミーティング等で話し、実践につなげている。	地域に根ざしたホームとして実践力の向上と地域にあるという入居者への安心につながる事を目指している。明るい笑顔と挨拶を常に心がけて、ホール内に処遇方針、キャッチフレーズを掲示している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	感染症予防に努め、状況に合わせて外部との接触制限を調整行っている中で、地域のお宮へ初詣に出かけたり、地域の秋祭りで交流しながらつながりを持っている。	地域の秋祭りの獅子舞には子ども達が来て接待をしている。小学校の呼びかけで始まったベルマーク集めは今も(思誠小学校)続いている。公立大学の看護学生の実習の受け入れをした際のカンファレンスでは率直な意見をもらい実践に活かしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	新見公立大学の看護実習の中で認知症の人の理解や支援の方法を活用行っている。また、近くの小学校へヘルマークの協力等をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ひと月置きに実施、行政からの報告・指導、家族の意見を聞き日々の支援に活用している。また、民生委員の方から意見や感想を伺ったり、地域の動静を伺っている。	地域の民生委員や家族、行政の参加で2ヶ月に1回開催している。地域の情報交換の場となるが理解者、協力者の広がりが乏しいのが現状であり今後の検討事項である。	ひやりハットの対応事例や実習生の意見を紹介するなどホームでの生活を伝えて知ってもらいながら、地域への発信に繋げていかれる事と期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	常に連絡・相談・報告をさせて頂き、ご指導も頂いている。	介護扶助券、被服費の相談、書類提出などその都度電話や訪問して相談している。(必要に応じて家族へ連絡している)	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に身体拘束についての研修を行っている。 当ホームでは拘束を行っていない。	玄関の施錠はしていませんが、常に目視見守り寄り添っている。身体拘束については朝のミーティングで話題にし意識向上に努めている。管理者が常にフロアーにいるので入居者の安全、安心につながるように心がけている。	帰宅願望のある入居者を含め無断で戸外に出た場合の地域での見守り、声掛けによる協力関係が構築される事を期待します。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に虐待についての研修を行っている。 当ホームにおいて身体的・又は言動による虐待に及ぶ事はない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	人としての権利・後見制度についての研修を行っているが、現在後見制度の活用状況なし。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時等に十分な説明を行い、納得、承諾を頂く様心がけている。また、来所時にご本人の状態の報告や、受診の報告をご家族にお伝えし不安への軽減につなげている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	機会のある際に個々にご意見を頂戴し、苦情窓口の設置も行っている。	面会時、利用料の支払時に積極的に声掛けをして入居者の暮らしの様子(受診の報告も含めて)を伝えている。要望を聞きながら対応している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議、ミーティング等の機会を通じて職員の意見を聞き、活かせるものを活用している。	フロアーに出ている管理者との距離が近いので職員は何かあればその場で指示がもらえて動きやすい。管理者への意見も直接業務内で知らせており、風通しの良い組織と関係性ができて働きやすい事が窺われる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の得意分野、能力に応じて業務内容に配慮し、ストレスの軽減に努める。勤務希望に応じ無理のない勤務状況としている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内外の研修、資格取得について施設としてできるだけ配慮を行っている。施設内研修を定期的実施し知識や技術の向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	新見市内グループホーム・小規模多機能居宅介護施設連絡会に所属しているが、感染予防に接触の自粛中。連絡は取り合っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の気持ちを伺い、合わせてご家族等から情報を頂き心身の不安の軽減に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の思いをお聞きし、その思いに添った生活支援ができる様に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族が必要としている支援に注目し、その上でご家族に必要な情報提供を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家庭的な雰囲気作りと本人が主体的に行える生活支援を行う中で信頼関係の構築にも努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の生活状況・不安、ご本人の思い・不安等に合わせて双方のパイプ役となるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	生活歴・趣味等をお尋ねし、生活環境の整備等に活用。機会のある際に馴染みの場所へお連れできる様に努めている。	入居時に本人・家族から個々の生活状況を聞き支援につなげている。病院や在宅からの入居が多く受診の帰りに自宅周辺を散策している。知人からの電話で面会の問い合わせがあり、積極的に訪問を受け入れている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関わりがメンタルケアに繋がっている様子が見られる。関係性の構築の為のサポートにも努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	状況に応じた相談を随時受けている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	嗜好、意向の調査行い、QOLの向上への支援を行っている。	コミュニケーションが困難な場合はボディタッチから入居者がなにを欲しているのか汲み取っている。日常的な会話の中から、嗜好のヒントを得るなど個々の意向に添った支援を行っていることが窺える。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴や習慣等、生活支援に活かせる様情報の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	常に状態の把握に努め、定期的に評価も行い、生活支援に活かせる様努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	状況の変化等に合わせご家族と話し合い、現状に即した介護計画の作成を行っている。	毎月、個別のオリジナル支援経過記録(健康面、精神面、ADL)を参考に、職員から状況を聴き、変化があれば家族へ連絡を取り話し合い、計画作成をしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録、職員間での情報共有を行い介護計画の見直しに活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々ニーズに対応できるようにサービス内容、機能に柔軟性を持てる様に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	一人一人に関わる地域資源を活用し支援行える様に努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医への受診、相談を行い、ご本人の健康状態の維持と体調管理に努めている。	エリアが広範なため市内のかかりつけ医については状態把握している職員が付き添っている。身近な関係性の中から、入居者の混乱もなく市内の病院への利用をしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師居り、意見交換、情報交換を行い受診時に医師に正確な情報提供ができる様にしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	定期受診等で医療関係との関わり、情報交換、指導を頂いている。 新見医療連携情報共有書の活用を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族に状況の報告を定期的に行っており、その中で重度化した場合等についての協議し、双方に納得のいくよう話し合いを行っている。	看取りはしていないが重度化した場合はその都度タイミングをみて説明している。	入居時の重度化した場合の対応や方針などについて、説明し文書で知らせるなどの工夫に期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急処置等施設内での研修にて扱い実践力を養える様努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な避難訓練の実施行う。災害時の対応マニュアル作成も行い、緊急時の対応行える様心がけている。	年2回昼間と夜間想定した訓練を行い、管轄消防署に報告を行っている。業務継続計画(BCP)に基づいて備蓄品の分散保管をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々に生活歴や個性を尊重し適切な関りを持てる様に努めている。 施設内研修で人権尊重、権利擁護についての学びの機会を設けている。	研修資料に基づき研修を行っているが職員の理解については理解度チェックの工夫等が今後の課題である。トイレへの誘導は自尊心を大切に思いを汲み取りながら工夫している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定可能なものには常に思いを伺い、尊重できるように心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の生活の中で随時気持ちの変化に添うよう心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣服の選択等本人の希望を尊重し、身だしなみの支援を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節を感じられる献立を工夫している。可能な方には簡単な調理の手伝いで参加して頂いている。喜ばれた物があればその様子を記録に記す事も行っている。	オーナーからの食材提供(自家製の米、野菜)で季節感あふれる旬の野菜をふんだんに使って食卓を彩っている。庭に咲く季節の花をそえている。パースデーは個々に希望を聞き献立を決めて、散らし寿司の希望が圧倒的に多い。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事内容や食事形態に個々に合わせた工夫を行っている。 摂取量のチェックも行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に、声かけ行い口腔ケアを実施し口腔清潔の保持に努めている。夜間は義歯預かり洗浄、消毒を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を用いて声かけ、介助を行っている。	排泄チェック表を使って排泄リズム・パターンを知り、入居者の動作からトイレでの排泄を促し、プライバシーに配慮した支援をしている。3名の入居者が布パンツを使用している。夜はリハビリパンツとパット使用して自立に向けた支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	運動量の確保と食事、おやつ等に工夫を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は週2回実施。本人の気分や状態に合わせて日時の変更も行える様配慮を行う。	個々の生活習慣に合わせてその日の気分や状態を配慮しながら無理のない誘導をしている。季節毎に「ゆず・菖蒲など」を使って温泉の気分を味わってもらっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室の環境整備、その人らしい環境に整え、安心して休んで頂ける様に工夫、夜間の良眠に繋がる様、日中の活動量を確保できる様に努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診時の薬剤の確認、説明書を個人ファイルに綴じ介助者がいつでも閲覧できるようにし、服薬介助時は確実に服薬できるように支援を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	レクリエーション活動や行事、軽作業の中に取り入れ生活意欲の向上に繋がる様に心がけている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	機会があれば市内のドライブ等の外出支援を行い気分転換行えるように支援している。	花見などの季節の外出以外にも、気候の良い日には、敷地内散歩をして気分転換を図っている。通院時の帰りに外出支援を兼ねて実家周辺のふるさとドライブをしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人に金銭を持って頂くことはしていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	随時電話でのやり取りは行っており、ご利用者の心身の安定に繋がっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じた飾り等、家庭的な雰囲気作りに努め、居心地よく過ごせるように努めている。	ホールの壁面に職員と共に制作した季節感あふれる装飾の大作がある。違和感なくホールの雰囲気に馴染んでいる。クリアボードには興味関心の高い漢字の部首を集めた一覧表が貼ってあり熟語を書きながら脳トレをしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間、食卓の席の配置では利用者さん間の関係性に配慮して行い、ソファで気の合った同士で座る等居場所の工夫を行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの物等居室内は個々に合わせて部屋作り行い、安心して生活できるように支援を行っている。	入居前の生活の延長と捉えて環境を出来るだけ変えず馴染みの物(お位牌、テレビ、ぬいぐるみなど)を配置に工夫しながら部屋作りをしている。ぬり絵や人気スターのポスターなども掲示している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手摺を多く設置し、自力で移動、行動しやすくしている。建物はオール電化、段差なしで安全の確保に努めている。		